

株式会社生田

当社は本革を使ったランドセル専門の製造販売会社。ランドセルは1本と数えるのですが、1本1本を自社で手作りしています。私たちが子どもの頃は、ランドセルは革製でしたが、クラリーノなどの人工皮革が登場。軽くてシワになりにくく、カラーバリエーションも豊富で、防水といった機能も付加した人工皮革ランドセルの

人気が高まり、一時は本革ランドセルの市場が激減しました。ですが、数年前から、あえて本革を求める方が増え始めています。革は使う人によって色の風合いやシワなど変化もさまざま。子どもの成長や経験がランドセルに刻まれ、何ともいえない「経年変化」が現れ、本物の「あじ」を大切にしたい、または子どもに本物を知ってほし



専務取締役

長井宏治さん

子どもの成長とともに風合いが増す革の良さを生かしたランドセルを作りたい

という方に支持されています。

工房では革を必要なパーツごとに裁断し、ミシンや手で縫い合わせ、組み立てて作るので、時間も手間もかかります。それでも手作りにこだわるのは、6年間使い続けられる頑丈な品質を維持するため。愛情込めて作ったランドセルには、なんとも言えない温もりがあると思っていますし、その思いが子どもたちに伝わればうれしいですね。

ランドセル選びは、今や冠婚葬祭に並ぶ大イベント。おじいちゃん、おばあちゃんも含め、家族みんなで選び、子どもの成長をお祝いする意味合いが強くなっています。カタログやネットで選ぶのではなく、実際に実物を見て、背負ってみて、選んでもらう。ランドセルを通じて、家族で楽しんでもらうことが、当社の思いです。工房を公開し見学できるようにしたのも、職人たちの丁寧な作業を見ていただきたいし、思い出作りをしていただきたいからです。

少子化の波は、ランドセル業界にも不安な影を見せています。市場規模が確実に小さくなっていきます。それでも、ランドセル文化を後世に残すために、お客様のご意見をもとに、毎年、改良を重ね、背負いやすさや部材の新機能など、より良いものを追求していきます。海外での展開や大人向けアイテムなど、新しいことにもチャレンジしていきたいですね。



ランドセルはA4クリアファイル対応。



奥行が広く、収納力が大きく、軽く、背負いやすいものが主流。

生田カバンは、基本モデルをベースに、色や糸、金具、内側の模様など好みに合わせて変更できるセミオーダーが中心。



現在、スタッフは全部で18人。そのうち、縫製工場のスタッフが15人。

まったく違う職種から転職した20代の若い女性スタッフもいます。正社員として雇用し、必要な技術をまっすぐに身につけてもらっています。

